

NADPZ

MARCH NEWSLETTER

人々に感謝



庭・施設管理スタッフ

プロジェクトサイトの庭を美しく緑豊かに保つためにたゆまぬ努力をしている私たちのプロジェクトサイトグラウンドチームをご紹介します。彼らは私たちがサイトを構築して以来私たちと一緒にいて、素晴らしい前向きなエネルギーを持っているとても献身的な人たちです。

サツマイモの季節

この季節は一年の中で私の好きな時期の一つです。女性たちはサツマイモの収穫を楽しみにしており、私はキャンプファイヤーとそこでの焼き芋を楽しみにしています。

落花生

ピーナッツは栄養失調との闘いの中で重要な栄養的役割を果たします。それらは主食にもなり、私たちの農民にとっての大きな収入源でもあります。私たちのプロジェクトサイトの落花生畑は今年大成功を収めており、たくさんの収穫を見込んでいます。

他のNGO団体と協力して植樹

NACRO（新使徒教会救援組織）と呼ばれるNGOは最近、女性支援プログラムの一環として、ムババラ地区の女性農民に1000本の苗木を寄付してくれました。苗木は8つの組合に分割され、組合集会所と近隣の学校に植えられます。中心になるプロジェクトサイトには100本の苗木が寄贈され、トウモロコシ畑の周りに植えられ、畑の防風林として機能する予定です。木は私たちに酸素を与え、炭素を貯蔵するだけでなく、土壌を安定させるので、私たちの環境持続可能性目標において重要な役割を果たします。



学校の課外活動

2015年にペンバスクールを開校するに当たって私たちの目標の一つは、次世代の小規模農家を育てることでした。基本的なカリキュラムを提供するだけでなく、農業などの課外活動を含めることも重要だと感じました。学校園芸のなかで、子供たちが共通の目標を達成するためにコミュニケーションを取り、チームとして働くことを必要とします。これにより、子供たちはお互いと環境に対する新しい認識と尊敬を育むことができます。敷地内の雨季が終わると、4年生と5年生の子供たちが菜園の準備を始めます。彼らは、菜種や白菜などの簡単に育てられる野菜を育て、学校の給食プログラムの一環として使用する予定です。また、キャベツ、トマト、タマネギなどのより複雑な野菜を栽培するように訓練され、種の保存方法も勉強していきます。



学校給食プログラム

毎年、中央プロジェクトサイトでは自然農法のトウモロコシを栽培しています。トウモロコシが収穫されると、まず協同組合委員会は次の農業シーズンに植えるために種を保存します。残りの収穫は、毎月の農民会合や毎年恒例の自然農法ショーに集まるで女性たちの食料として使用されます。今年は、ペンバ地区組合の畑ので収穫できたトウモロコシの一部を学校給食プログラムに寄付することができました。学校が現在実施している1日1食のプログラムは保護者からそれぞれ年間2袋を寄付するトウモロコシで賄おうとしていますが、寄付できない親御さんもいます。そんな状況の中でこの度の組合からの寄付はプログラム継続の大きな助けとなります。学校給食プログラムは、1日に一回は子供たちに簡単で健康的な食事を提供することで、子供たちの成長と発達を促進するために重要です。私たちは、子供たちと地域社会に、学校は将来の農民が丈夫に育つために、安全な基盤を提供していると感じてもらいたいと思っています。（写真はペンバ地区のトウモロコシ畑です）





食物の力

今月の注目

専属料理人兼ゲストハウスの世話役であるレオ・ムデンダを紹介しましょう。マチャ地区のある女性農民から紹介されレオに初めて会ったのは2005年でした。レオは料理に情熱を持った男性として、地域の女性たちから強く推薦されました。彼の優しい性格、陽気なエネルギー、そして人々への愛情に私は強く印象付けられました。

レオは、私たちが泊まっていたマチャ地区にあるゲストハウスから50キロ以上離れたチラランタンボ地区に住んでいましたが、食事の準備を完璧にこなすために毎日行き来する彼の献身と意欲は、美しいくらいでした。そのため、中央プロジェクトサイトを構築する計画が現実になったとき、採用したい人物として彼は私のリストの一番上にいました。

レオは大家族の出身で、家族は彼の料理への情熱を心からサポートしています。レオの主な収入源はコミュニティへのケータリングであり、彼の妻と二人の美しい娘が自然農法を実施してトウモロコシとサツマイモを立派に育て、彼を支えています。

「白人女性のもとで働いていたとき、彼女から料理を習い、そこから料理に興味を持ち始めました。このプロジェクトは私の人生を変えました。そしてたくさんの人に出会うこともできました。村長さんがプロジェクトサイトのすぐ隣に私のために土地を提供してくれたので、仕事に行くためだけに1時間も自転車に乗る必要がなくなり、とても嬉しいです。このプロジェクトのおかげで、子供たちを学校に行かせることができ、家を建て、新しい自転車を購入することができました。」

プロジェクトサイトのゲストハウスは、多くのNGO、ボランティア、政府関係者、そして周辺地域から通りかかった人々によって使用されてきました。これらの人々の多くは、プロジェクトサイトがどれほど美しいかを私に伝えるために私にメッセージや電子メールを送ってくれました。彼らは常にレオの料理のスキルと彼の家庭的なおもてなしについて言及しています。それが彼らがまた戻ってきたいという理由の一つになっています。

「プロジェクトサイトの敷地内で道路に面したところに現在小さな店とレストランを建てているところです。私は将来にワクワクしています。ここで自然農法の野菜を販売したり、料理に興味のある若者に調理法を教え彼らと様々な食べ物を作りたいと思っています。私たちの文化では、食べ物は人々を繋ぎますので。」

教育が鍵

メアリー・ゴマ、29歳。彼女はムウェンセ・ルアプラ地方で生まれ、スワン小学校に通い、その後チョマ市にあるチュウンドウ高校を修了しました。

若くしてメアリーは自分の情熱が教育分野にあると判断し、パグロリー教育大学の高等教育機関に通い、幼児発達について学びました。現在マンボウ女性農民組合の小学校で教えながら、彼女はチャリンバーナ大学で幼児教育の学士号を取得することに取り組んでいます。

メアリーは2016年10月に私たちのマンボウ女性農民組合の小学校に赴任してきました。ここが地区教育委員会によって彼女に割り当てられた最初の任地だったので、彼女はこの地域にやってきて以来、積極的で無私の役割を果たし、彼女の温かく前向きな笑顔は、学校と女性農民のプロジェクトから多いに歓迎されています。

「私はマンボウ女性農民組合の小学校での滞在を楽しんでいます。子供たちに教えているとき、今こうして、自分が情熱を注いできた教育と子供たちの学習に携わっていることに対して興奮を覚えます。私の目標は、子供たちに解りやすい様に教えるだけでなく、生徒たちがより深く掘り下げるように促すことです。



私が教師になった理由は、子供たちに関わることが大好きで、子供たちの人生に前向きな変化をもたらすことができると願っているからです。教室で自分の情熱を日々注いでいることに感謝しています。生徒の学習を飛躍的に伸ばす「きっかけ」を見つけることへの挑戦は、私を興奮させます。とても多くの先生方が私に感化を与えて下さり、私は彼らのようになりたいと思いました。

私はこの学校の成長を願い、その成長の一部でありたいと思っています。私はこの学校が普通の小学校から中学を含むようになること、そして教育環境に恵まれない地方の子供たちがさらに高等教育または大学教育へ進む機会を生み出すことを望んでいます。この学校は、生徒だけでなくその家族にも希望を与える強力な基盤と支援環境を作り出すことができると感じています。」



来月号のお知らせ

- ペンバ地区のPEA会員たちによる学校拡張のためのレンガ作り
- 職業訓練校の生徒たちにより寮建設のための基礎工事はじまる
- 雨季が終わり野菜の植え付けが始まった
- 二つの井戸設置
- 農民クラブのマシュルーム栽培研修

NATURAL AGRICULTURE DEVELOPMENT PROGRAM ZAMBIA

"EAT WHAT YOU GROW & GROW WHAT YOU EAT"

